

学校法人イーエスピー学園

専門学校E S Pエンタテインメント東京

2024年度 自己評価報告書

評価基準日 2025年 3月 31日

評価対象期間 自：2024年4月 1日

至：2025年3月31日

評価項目

1. 学校の教育目標
2. 本年度に定めた重点目標や計画
3. 評価項目の達成及び取組状況
 - (1) . 教育理念・目的・育成人材像
 - (2) . 学校運営
 - (3) . 教育活動
 - (4) . 学修成果
 - (5) . 学生支援
 - (6) . 教育環境
 - (7) . 学生の受入れ募集
 - (8) . 財務
 - (9) . 法令等の遵守
 - (10) . 社会貢献・地域貢献
4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果



○自己評価委員会 構成

- ・委員長 村本 英之（教務部長）
- ・委員 岩崎 桂（教務課 課長）
袖嶋 浩之（管理部/総務課 次長）
澤田 吉剛（企画広報課 係長）
横堀 耕祐（学生支援課 係長）
阿部 奈央（総務課）

1. 学校の教育目標

【建学の精神】

音楽・楽器を創造することを通じて豊かな人格を形成し、さらに自己の可能性を追求する人材の育成。

【教育の理念】

建学の精神に基づき、エンタテインメントに関する高度かつ最新の知識や技術を修得し、感動を創造できる人材の育成に力を注ぐ。

【目的】

本校は、学校教育法及び本学園の教育理念に基づき、エンタテインメントに関する知識や技術を授け、人格の涵養のもと、個性と可能性を大きく伸ばした人材を育成することを以って、文化の向上と社会の発展に貢献することを目的とする。

【育成人材像】

感動を創造できる人材を育成する。それは以下のような人材像である。

1. 好奇心を持ち続け、常に課題（テーマ）を見つけ、解決することができる人材
2. 初心を忘れず、常に目標（夢）を持ち、達成し続ける人材。
3. コミュニケーションをとり、仲間と仕事をやり遂げることができる人材。

【運営方針】

- ・教育の理念に基づき、教員、設備、カリキュラム等、教育環境の充実を図る。
- ・学生との緊密な関係を築いていくために最大限の支援体制を構築する。

2. 本年度に定めた重点目標や計画

1. 進級率・卒業率を向上させるための学生サポート体制強化

- ・学生個別の対応強化
- ・施設、設備等の教育環境整備
- ・家庭（保護者等）と学校との連携強化

2. 防災、防犯等各種マニュアル類の見直し、改定と周知

3.評価項目の達成及び取組状況

(1) .教育理念・目的・育成人材像

評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
1 - 1	理念・目的・育成人材像は定められているか	✓			
建学の精神及び本学園の理念に沿った目的、育成人材像は「1. 学校の教育目標」に記載のとおり定めている。建学の精神及び教育の理念はホームページやパンフレット等にも明示している。					
1 - 2	育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	✓			
本校の教員は現役の業界人が主であり、授業計画はその教員の意見が反映されている。また、教育課程編成委員会を組織し、業界関係者の意見及び学生支援課内キャリアサポートセクション（就職支援部署。以下、C S S）の情報も積極的に取り入れ、カリキュラムに反映させていることから、適合していると判断する。					
1 - 3	理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	✓			
エンタテインメント業界への人材輩出を使命とする本校は、業界のニーズに対応するために、特色のある7学科26コースを設置しており、学科・コース全体がエンタテインメント業界の縮図となっている。また、教員には、教務課の意向を理解するのはもちろんのこと、時代のニーズに合ったカリキュラム改革に意欲的である人材を起用するようにしている。					
1 - 4	社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか		✓		
関連業界においては、以前は基礎的な知識・技能に加え、コミュニケーション能力や、やる気を備えた人材を採用のうえ教育・育成する方法が主流であった。現在においても同様の人材育成方法を取っている企業は少なくない。他方、近年、現場での対応力に加え、普遍的な能力（業界マナー、関係部署に関する知識、P C 関連スキル等）や専門的な知識・技能を持つ人材を積極的に求める傾向にもある。特に現場ではこのような即戦力となる人材の不足に加え、後継者育成という課題も抱えており、適切な人材の早急な供給が求められている。この現状を踏まえた将来構想に基づき、授業において普遍的な能力や専門技術を習得できるよう可能な限り指導している。					
		評価者	岩崎 桂		

(2) . 学校運営

評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
2 - 5	理念等に沿った運営方針を定めているか	✓			
1. 学校の教育目標に記載のとおり運営方針を定めており、本法人の理念及び目的に沿った方針であると認識している。					
2 - 6	理念等を達成するための事業計画を定めているか		✓		
予算も含めた年度毎の計画が立てられ、実施されている。また、学科責任者によって構成される事業検討会では、将来のビジョンを共有し、情報交換や中長期の計画を協議している。					
2 - 7	設置法人は組織運営を適切に行っているか	✓			
理事会、評議員会は寄附行ために基づき適切に開催され、必要な審議を行い、議事録を作成し保存している。					
2 - 8	学校運営のための組織を整備しているか	✓			
組織図及び業務分掌規程を整備し、各部署の役割を明確にし運営している。また、各種規程を整備し、必要に応じた会議及び委員会を実施し、議事録を作成し保存している。					
2 - 9	人事・給与に関する制度を整備しているか		✓		
就業規則等を整備し適格に運用している。人事考課制度により年3回の人事考課を実施しており、各評価項目に基づき評価及びフィードバックを実施している。					
2 - 10	意思決定システムを整備しているか	✓			
定期的に開催される上層部会議で意思決定が成され、共有すべき事項については各部署、及び各学科運営に必要なレポートラインにて共有されている。					
2 - 11	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	✓			
各業務において様々なシステムを導入し、運用している。多種多様な電子ツールの使用により、スムーズに業務が進行していると認識している。					
		評価者	岩崎 桂		

(3) . 教育活動

評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
3 - 12	理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	✓			
教育課程編成委員会規程に方針を明示している。教育課程編成委員会においては、エンタテインメント業界の最新の動向把握に努め、本校の教育課程における知識や技術を習得に生かしている。					
3 - 13	学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	✓			
各学科のシラバスに到達目標を明示している。また、資格取得を目指す学科においては当該資格取得者を教員とする等、支援体制の整備を行っている。					
3 - 14	教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	✓			
教育課程編成委員会は、教育目的・目標に沿った教育課程の編成を目的として設置されており、現行の教育課程は本校の目的に沿ったものと認識している。					
3 - 15	教育課程について外部の意見を反映しているか	✓			
教育課程編成委員会及びC S Sを通じ、業界の意見を学科内で検討したうえで、適宜カリキュラムに反映している。					
3 - 16	キャリア教育を実施しているか	✓			
本学園の理念や、本校の目的や運営方針はキャリア教育の実施を基本としており、設備や研修等含め本校の教育は、キャリア教育を基礎としていると認識している。					
3 - 17	授業評価を実施しているか		✓		
前期・後期試験に加え学生に対しアンケート調査や個別面談を実施し学生の理解度を確認することにより、授業評価を行っている。さらに教務職員による定期的な授業視察を実施し、適宜授業の進め方における改善策を教員と協議している。					
3 - 18	成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか		✓		
学則に定めるとおり運用している。評価方法について明示したシラバスを本校ホームページに公表している。					

(3) . 教育活動の続き

評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
3 - 19	作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	✓			
学内で実施する作品コンテスト、発表イベントの他、外部イベントやオーディションの結果につき情報収集も行い、把握に努めている。					
3 - 20	目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	✓			
資格及び免許取得が可能な科目については、シラバス上で目標を明示している。例えば音楽芸能スタッフ科アーティストスタッフコースでは著作権検定、照明コースでは色彩検定が取得可能である。また、資格取得に向けた特別講座も学内外において実施している。					
3 - 21	資格・免許取得の指導体制はあるか	✓			
資格取得が可能な科目については、授業内、または特別講座において指導しており、体制として整備されている。					
3 - 22	資格・要件を備えた教員を確保しているか	✓			
エンタメ業界及び楽器業界で活躍する者で、学校教育法上の欠格事由、及び東京都暴力団排除条例等（反社排除）に定義される規制対象者に該当しないこと、さらに専修学校設置基準に定められている要件を満たしているかを確認し、面接等所定の審査を行い、教員を確保している。					
3 - 23	教員の資質向上への取組を行っているか		✓		
業界で活動している者を教員として採用することを基本とし、教育の質を向上するための指導方法や学生との接し方について、教職員間で定期的に改善点を共有・協議している。ただし研修の実施はスケジュール的に困難であり、現状はできる範囲での対応に留まっている。					
3 - 24	教員の組織体制を整備しているか	✓			
各科、コースに主任を配置し、レポートラインを明確にすることで、組織体制維持や業務に必要な通達及び情報を即時伝達できる体制を整備している。					
		評価者	岩崎 桂		

(4) . 学修成果

評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
4 - 25	就職率の向上が図られているか	✓			
C S S にて学生の就職サポートを行っている。C S S では、企業へのアプローチ、求人依頼、企業説明会企画等を行うとともに、学生に対する就職講義、個別相談対応、履歴書添削、面接練習等を行っている。卒業時に卒業生全員に対して進路調査を行っており、データ把握に努めている。関連業界の動向などの情報を姉妹校と共有している。					
4 - 26	資格取得率の向上が図られているか	✓			
在学期間中に資格取得のための筆記及び実技対策講座を各科各コースにおいて適宜実施している。また、有資格者を教員として配置する等、通常授業の充実も図っている。企業の声から現場で現在必要とされる資格の情報を得ている。					
4 - 27	卒業生の社会的評価を把握しているか	✓			
学生支援課において業界、企業との接点を多く持ち、各所で活躍する卒業生たちの動向把握や評価情報の収集を行うことによってその評価を確認している。					
		評価者	横堀 耕祐		

(5) . 学生支援

評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
5 - 28	就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	✓			
学生支援課内に専門部署となるデビューサポートセクション(音楽・芸能活動支援部署。以下、D S S)、C S Sを設け、学科教務と連携しつつ進路に関する支援や指導にあたる体制を整備している。 4-25に記載の就職指導、オーディション等の情報管理及び主催オーディション運営、その他各種支援を行うための体制を整備している。					
5 - 29	退学率の低減が図られているか		✓		
進級及び卒業に必要な出席率を下回った学生には優先的に個別面談を実施している。保護者等にも連絡し就学に対する家庭の協力を促している。学習面においては出席率や成績に応じて補講を実施している。また、心理面でのケアが必要な学生には外部のカウンセラーによる相談室を案内している。毎年実施する授業アンケートにより得た学生の声を参考に対応策を検討している。					
5 - 30	学生相談に関する体制を整備しているか	✓			
各学科教務及び学生支援課においては、定期的に個別面談を行う他、相談の申し出があった際には都度個別相談に応じる体制を整備している。本校職員・講師や家族・友人等に相談しにくいケースを想定し、毎週木曜日には外部のカウンセラーによる相談室を開催できるよう対応しており、相談内容によっては医療機関への相談を勧める場合もある。相談室はZOOMを使用したオンライン相談にも対応しており、現状、十分な対応が出来ていると認識している。					
5 - 31	留学生に対する相談体制を整備しているか	✓			
学生支援課内に国際ナショナルコミュニティセンター（以下、I C C）を設置し、入学前、在学時、卒業後のいずれにおいてもあらゆる相談を受け付け、専任職員が個別に対応する体制を整備している。海外出身職員による外国語での対応も可能である。					

(5) . 学生支援の続き

評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
5 - 32	学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	✓			
本校は修学支援新制度の対象校であり、給付奨学金、授業料等減免が受けられる体制が整備されている。また、学校独自の奨学金制度として「E S P 学園特待生奨学金制度」「イーエスピー学園卒業生・在校生兄弟姉妹特別奨学生制度」を整備している。 上記に加え、学納金納入は年間2期での分納も認められている。 これらの学納金等経済面における支援に関する事項についてはホームページ、掲示板等で告知され、専任職員が質問・相談等に対応している。					
5 - 33	学生の健康管理を行う体制を整備しているか	✓			
毎年全学生を対象とした健康診断を実施している。体調不良による欠席者の対応において必要な場合には医療機関の受診を勧める場合もある。 学校医を選任している。また、学内に常設の保健室を設置している。					
5 - 34	学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか	✓			
学生寮等の運営をしている複数の会社と提携している。					
5 - 35	課外活動に対する支援体制を整備しているか	✓			
部活動においては教職員が顧問となり活動状況の把握に努めている。また、発表会等も行っており、外部会場にて開催の場合には随時教職員が引率する等の支援をしている。 また、学外（課外）活動支援として、定期的に学外ライブハウスを借りてライブイベントを企画・開催し、その際に発生したチケット代は参加バンドへ全額還元している。					
5 - 36	保護者等との連携体制を構築しているか	✓			
教育活動に関する情報を期末試験の個別成績発送の際に保護者等に共有し、保護者等と連携した指導を行う。また、保護者等の来校の際には学科責任者又はそれに準ずる者が対応している。 緊急時には情報管理システムに登録されている情報から保護者等に連絡する。					

(5) . 学生支援の続き

5 - 37	卒業生への支援体制を整備しているか	✓			
卒業生も C S S 及び D S S の利用が可能であり、転職の支援やオーディション情報の提供等、在学生に対する支援と同等の支援体制を整備している。 また、希望者には、C S S ・ D S S にての事前登録により、求人情報・デビュー（オーディション）情報をオンライン上で得られる体制を整えている。					
5 - 38	産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか				✓
エンタテインメント業界の企業においては、「現場で学ぶことが一番である。」という考えのもと、卒業前の企業採用選考過程においてインターンシップ等が実施されることも多い。このことから、卒業後に改めて産学連携による再教育を行うことへのニーズは無いと認識しており、現状は実施していない。					
5 - 39	社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか				✓
社会人経験者の入学も受け入れているが、働きながら履修できるシステムはなく、社会人学生や聴講生を受け入れる体制を整備していない。 また、過去に社会人や就学前の人を対象とした附帯事業を行っていたこともあったが利用者が少ないかったため、社会人のニーズは少ないものと判断し現在では募集停止状態となっている。					
		評価者	横堀 耕祐		

(6) . 教育環境

評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
6 - 40	教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	✓			
各学科、各コースにおける必要な設備等は整備されており、関係法令上の基準に適合していると認識している。また、卒業生にも一部施設利用を可能としている。					
6 - 41	学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか		✓		
エンタテインメント業界関連企業よりいただく学外実習・インターンシップについては、学生にとって大切な経験の一部と位置付け、積極的な参加を促している。また企業見学、企業訪問も年間を通じて随時行われているが、これらの企業は業界関連企業がそのほとんどを占め、就職に直結するものである。海外研修に関しては、米国及び韓国の関係校と連携し実施している。					
6 - 42	防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか		✓		
各校舎等も耐震化に対応済みであり、法令に基づき消防設備の保守点検を行っている。防災・災害、危機管理等、防災に関するマニュアルを整備し、広域避難場所の学生への周知も行っている。					
6 - 43	学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか		✓		
学校安全計画・保健計画（学校保健・安全管理マニュアル）、防犯マニュアル、学校安全計画及び関連マニュアルが整備されている。 その他、衛生管理者及び産業医による巡回及び指導を実施し、安全管理に対する意識付けと環境整備をを常時行っている。					
		評価者	袖嶋 浩之		

(7) . 学生の受入れ募集

評価項目		適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
7 - 44	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	✓			
高等学校等の進路説明会に積極的に参加し、定期的に本校の教育活動等の情報提供を行っている。また軽音楽部、吹奏楽部等、本校設置学科に関連する部活動と連携したイベント等の機会において、本校の特色等につき情報提供を行っている。					
7 - 45	学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか		✓		
AO入試、推薦入試及び一般入試を実施し、各入試については、東京都専修学校各種学校協会の通達に則した実施時期としている。なお本校における入学時期は4月のみである。学生募集活動の重要な位置付けとなるオープンキャンパスに関して、開催回数の効果的な設定、体験授業・学校説明会における内容の充実度につき常に検証し、都度改善を行っている。					
7 - 46	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	✓			
入学選考基準及びその方法は学則にて明確化されており、募集要項及び本校ホームページにてその内容を明記し運用している。					
7 - 47	入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	✓			
合格率及び辞退率のデータは毎年蓄積・管理している。また入学者数及び入学者の傾向を入学前に実施する特別授業・レベルチェック・個別面談にて把握し、その結果を基に適切なクラス分け及び教室割を実施している。					
7 - 48	経費内容に対応し、学納金を算定しているか	✓			
経費内容に対応し学納金を算定し、学則変更申請時に行政に提出している。学校パンフレット、募集要項、ホームページ等に学納金等徴収金額を明記している。また、他校における学納金の情報について把握に努めている。					
7 - 49	入学辞退者に対し授業料等について適正な取扱いを行っているか	✓			
入学辞退者に対して、年度開始前までにその意思を示した場合には、入学金を除く学費を返金する旨を募集要項及び入学金等納入案内にて周知している。					
		評価者	澤田 吉剛		

(8) . 財務

評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
8 - 50	学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか		✓		
自己資金で設備投資を行うなど、財務基盤は安定している。					
8 - 51	学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	✓			
継続的に財務分析を行い、財務基盤の安定を図っている。					
8 - 52	教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	✓			
各部署毎に教育目標を念頭においた予算案が作成され経理部に提出される。経理部により精査のうえ単年度予算案及び事業計画案が作成され、評議員会にての諮問を経て、理事会の承認により決定される。					
8 - 53	予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか	✓			
予算及び事業計画と決算との間には大きな乖離は生じていない。適正な執行管理のために上申書及び計画立案書を整備しワークフローによる承認手続きを行う体制を整えている。					
8 - 54	私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実行しているか	✓			
私立学校法及び寄附行為に基づき、監事監査を実行している。					
8 - 55	私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	✓			
財務情報を本学園ホームページに公開している。					
		評価者	袖嶋 浩之		

(9) . 法令等の遵守

評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
9 - 56	法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	✓			
寄附行為に基づき理事会・評議員会を運営しており、学則変更等所轄庁への届出も適切に行っている。各種規程及びマニュアル等も法令に則した形で整備運用している。また、高等教育の修学支援新制度の対象校として認められている。					
9 - 57	学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	✓			
個人情報の保護に関する法律に則して個人情報保護規程を整備し、適切に運用している。また、管理システムにおいては通常のインターネットからは隔離したネットワークを構築し、外部からのアクセス等に備えた危機管理を行っている。					
9 - 58	自己評価の実施体制を整備し評価を行っているか	✓			
学則への記載に加え、学校評価実施規程を整備している。自己評価の実施にあたっては本規定に則り各科、各部門担当者や自己評価評価委員による自己評価を行っている。					
9 - 59	自己評価結果を公表しているか	✓			
評価結果については本報告書のとおり取りまとめ、本校ホームページ内情報公開ページにて公表している。					
9 - 60	学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	✓			
自己評価同様、学則への記載に加え学校評価実施規程を整備している。関連業界及び地元企業関係者、接続する学校の教職員、並びに保護者等を学校関係者評価委員とした学校関係者評価委員会を毎年度実施している。					
9 - 61	学校関係者評価結果を公表しているか	✓			
学校関係者評価結果については委員の意見を取りまとめ報告書を作成し、本校ホームページ内情報公開ページにて公表している。					
9 - 62	教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	✓			
ホームページ、パンフレット等により公表している。					
		評価者	阿部 奈央		

(10) . 社会貢献・地域貢献

評価項目		適切	ほぼ 適切	やや 不適切	不適切
10 - 63	学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	✓			
町内会の地域イベントにおいて、音響機材の設置やステージ登壇者の手配等の協力をしている。 また、外部（高校軽音楽部やエンタテインメント業界企業等）から施設利用の依頼があった場合には、授業に支障がない範囲にて各種教室やホールの貸し出しを行っている。 その他、高校に赴いてのイベント・ライブ支援、楽器の点検修理等、音楽振興活動を行っている。					
10 - 64	国際交流に取り組んでいるか	✓			
米国ハリウッドにある姉妹校及び韓国の有名ダンススクールにおける海外研修プログラムを行っている。また、積極的に海外に向け本校の情報を発信しており、多くの留学生を受け入れている。					
10 - 65	学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか				✓
特に学校として奨励することはしていないが、本校に届く募集情報の公開は行っている。 なお、学則等に明記していないものの、学生個人よりボランティア活動の申し出があった際には、授業の調整や公欠対応等、活動支援を検討する体制はある。					
		評価者	横堀 耕祐		

4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

1. 学校の教育目標に対して

本校の教育目標は、建学の精神、教育の理念、目的、育成人物像及び運営方針の5項目によって形成されています。エンタテインメント業界に携わる学校として、学生の将来を明確にナビゲートするためには、下記育成人材像として定めた3項目に関して、我々教職員自身が実践することが重要であり、それにより初めて真の意味で学生に伝えてられるものと考えています。次項の重点目標にも挙げて取り組んできた進級率・卒業率の結果からは、育成人材像とのギャップを感じている次第であり、現段階では高い目標とはなりますが、教職員一同次年度の改善に向けて取り組んでまいります。

1. 好奇心を持ち続け、常に課題（テーマ）を見つけ、解決することができる人材
2. 初心を忘れず、常に目標（夢）を持ち、達成し続ける人材
3. コミュニケーションをとり、仲間と仕事をやり遂げることができる人材

2. 本年度に定めた重点目標や計画に対して

1. 進級率・卒業率を向上させるための学生サポート体制強化
結果として本校全体では目指していた進級率、卒業率には届いておらず、中項目としてあげた以下の項目の更なる強化が必要であると考えています。

- ・学生個別の対応強化
- ・施設、設備等の教育環境整備
- ・家庭（保護者等）と学校との連携強化

また、前年の繰り返しになりますが、一度、長期欠席となってしまった学生を改めて出席させることは大変難しいため、まずは長期欠席者を出さない学生支援体制を確立させ、継続して取り組むことが必要であると強く感じています。

2. 防災、防犯等各種マニュアル類の見直し、改正と周知
危機管理マニュアルを改正しております。

3. 来年度重点目標・計画

1. 進級率・卒業率を向上させるための学生サポート体制強化

- ・学生に対する個別対応の強化
- ・施設、設備等の教育環境整備
- ・家庭（保護者等）と本校との連携強化